

令和元年6月17日現在

機関番号：12614

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K01516

研究課題名(和文) 海洋自然体験への継続的参加によるライフスキル獲得に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Effect on acquiring Life Skills through ocean nature experiences

研究代表者

千足 耕一 (CHIASHI, KOICHI)

東京海洋大学・学術研究院・教授

研究者番号：70289817

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、海洋自然体験活動において、どのような体験が参加者のライフスキル獲得プロセスに影響を及ぼすかを明らかにすることである。そのために、先駆的取り組みを行ってきた者を対象としたインタビュー調査、海洋自然体験活動への参加者への質問紙調査、指導者を対象とした質問紙調査を実施することにより、海洋自然体験活動によるライフスキルの獲得プロセスを探索した。その結果、活動の場となる海が持つ特徴、海での自然体験活動に含まれる様々な状況、他者との関係、活動の継続によって意思決定、問題解決、創造的思考、コミュニケーション、ストレスへの対処などのライフスキル獲得に影響を及ぼすことが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

海洋自然体験活動がライフスキルに及ぼす影響についての量的研究成果は示されているが、質的研究が不足している状況である。どのような体験あるいは刺激が、心理的あるいは行動の変容に影響を及ぼしたかを検討するためには、インタビューなどの研究方法を導入することが望まれる。そこで、本研究では、海洋自然体験活動について先駆的取り組みを行ってきた者を対象に聞き取り調査を実施するとともに、海洋自然体験に参加した者を対象とした質問紙調査、海洋自然体験活動の指導者を対象とした質問紙調査を実施することにより、ライフスキルの獲得プロセスを総合的に探索した。

研究成果の概要(英文)：The present study aimed to clarify acquiring process of life skills through ocean nature experiences or activities. For study 1, we interviewed 13 expert to clarify the contents of experiences and the psychological and behavioral changes. For study 2, we conducted a questionnaire on 25 participants. For study 3, we conducted a questionnaire on 50 expert. The results indicated that the "ocean nature experience" and "circumstances or situation associated with ocean nature experiences" components of ocean nature activities influenced acquiring process of life skills such as decision making, problem solving, creative thinking, coping with stress in participants.

研究分野：海辺や海洋での自然体験活動・野外教育

キーワード：海洋自然体験活動 ライフスキル

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

海洋自然体験活動の効果に関して、これまでに行われた研究においては、海辺の自然体験活動およびプログラムに参加することによる、生きる力、自己概念、自己効力感、EQ (Emotional Intelligence Quotient: 情動知能)、メンタルヘルス、海に対するイメージ、健康・体力、海洋リテラシー、環境に対する意識等の変容についての効果が示されており、一定の教育的効果を認めることができる¹⁾。また、野外教育の分野では、1996年の中央教育審議会答申に示された「生きる力」に着目して、橘ら(2003)²⁾が開発したIKR 評定用紙を用いた量的な調査研究が数多く重ねられてきている。同時期に、世界保健機関(WHO)は、「日常の様々な問題や要求に対し、より建設的かつ効果的に対処するために必要な能力」と定義した「ライフスキル」に関する教育が必要であると述べている³⁾。

これまでの海洋自然体験活動の参加者に対する教育的効果に関する研究では、参加者の望ましい発達を促す要因として、活動(遠泳、臨海学校、集中授業など)に着目したものが多く、活動に含まれている「人とのかかわり」などの体験を扱った研究は少ない。また、これまで海洋自然体験を通して得られる変容に関しては、数日間の活動を実験(介入)期間とする一過性の研究が多く、長期的な教育的効果といった視点からの研究は少ないのが現状である。海洋自然体験活動への参加者の変容を促すのは活動そのものに含まれる体験であると考えられ、より効果的な活動を計画するためには、一過性ではなくむしろ長期的な海洋自然体験から得られる心理的変容や行動面への影響を明らかにする必要があると考えられる。活動中の“体験”が参加者にどう意味付けられ、日常に活かされたかを検討することは意義があるといえる。

2. 研究の目的

海洋自然体験活動の先駆者や指導者、参加者を対象とした調査を実施することによって、海での自然体験活動に含まれる体験が参加者のライフスキル(意思決定能力、問題解決能力、創造的思考、批判的思考、効果的なコミュニケーション能力、対人関係の構築と維持能力、自己認識、共感する能力、感情を制御する能力、緊張とストレスに対処する能力)の獲得にどう影響するかといった枠組みを提示するとともに、獲得されたライフスキルが心理・行動面の変容についてどのような影響するのかを明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

(研究1) 海洋自然体験活動によるライフスキル獲得について、先駆的取り組みを行ってきた者を対象に聞き取り調査を実施することにより、ライフスキルの獲得プロセスを探索した。海洋自然体験活動に含まれる経験が参加者のライフスキル獲得プロセスにどのように影響を及ぼすかを明らかにするために、仮説検証型のアプローチによる、1対1の深層的(in-depth)、自由回答的(open-ended)、半構造的(semi-structured)面接調査を行った。面接では、長期的に活動を継続している指導者としての立場からとして、あらかじめ用意した2つの基幹質問項目を設定し、「海での自然体験がライフスキル獲得に影響を及ぼすか」、「ライフスキルを向上させるためにはどのような体験をする(させる)と効果的か」について発話を求めた。面接の分析手順は、ICレコーダに録音された面接内容をテキスト化した。次に、面接の逐語録から、分析ワークシートを作成し解釈した。

(研究2) 大学の正課授業において、海辺にてキャンプ生活を行いながらシーカヤックやスキューバダイビングを中心とした自然体験活動を主なプログラムとする3泊4日の集中授業参加者を対象に、授業最終日に振り返りとした質問紙を質的に分析した。得られたデータは、木下の修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(Modified-Grounded Theory Approach: M-GTA)の一部を援用し、分析作業において分析ワークシートを作成した。次に、分析ワークシートから分析の意図に応じてより具体的な活動や活動場面をとりあげた「概念の定義」と「概念」を導き出し、個々の概念と他の概念との関連性を検討して「カテゴリー」を生成した。カテゴリーを生成する過程においては、新しい解釈が出ないようにするために、複数の分析者によって理論的飽和化を確認した。生成されたカテゴリーから、世界保健機関が提唱するライフスキルのうち青少年の健康増進をねらいとする中核となるスキルとして挙げているライフスキル10項目との関係性を検討した。

(研究3) 海洋自然体験活動によるライフスキル獲得について、海辺の自然体験活動における指導者を対象に質問紙調査を実施することにより、ライフスキルの獲得プロセスを探索した。得られたデータは、木下の修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(Modified-Grounded Theory Approach: M-GTA)の一部を援用し、分析作業において分析ワークシートを作成した。次に、分析ワークシートから分析の意図に応じてより具体的な活動や活動場面をとりあげた「概念」を導き出し、個々の概念と他の概念との関連性を検討して「カテゴリー」を生成した。

4. 研究成果

(研究1) 得られたデータを分析した結果、海洋自然体験では、「海が危険であること」、「海という自然が相手であること」、「海は刻々と変化すること」、「海には原初的な魅力があること」など活動の場である海の特徴がベースとなり、「ストレスを乗り越える体験」、「達成する体験」、「必然的なコミュニケーション体験」、「危険な状況を乗り越える体験」、「真剣に取り組む体験」、「先導体験」、「自己決定体験」、「限られた中で工夫する体験」などの体験に含まれる要素がライフスキ

ルの向上に貢献する可能性があることが示唆された。また、上記のような体験を繰り返すことがライフスキルの獲得に大きく影響することが示唆された。

(研究 2) 得られたデータを分析した結果、集中授業での様々な海洋自然体験やキャンプ生活の中から「計画や準備をする体験」「変化する状況に対応しようと試行錯誤する体験」など 14 個の概念が抽出された。さらに、概念間の関連性を検討したところ、「C1. 身体的・精神的疲労を自己評価」「C2. 真剣に取り組まない危険な状況」「C3. 他人との比較や集団の中での自己認識」「C4. 限定された状況(場所・人・活動)への順応」「C5. 他者への関心」「C6. 自然が持つ癒やしと危険性の認識」「C7. 他者の言動を認める」「C8. 限界に追い込まれた時の自分を認識」「C9. 適応力の向上」の 9 個のカテゴリーを生成することができた。ライフスキル項目の内容と生成したカテゴリーとの関係性を検討したところ、ライフスキル 10 項目のうち「問題解決」を除く 9 項目との関わりが示唆されるものであった。

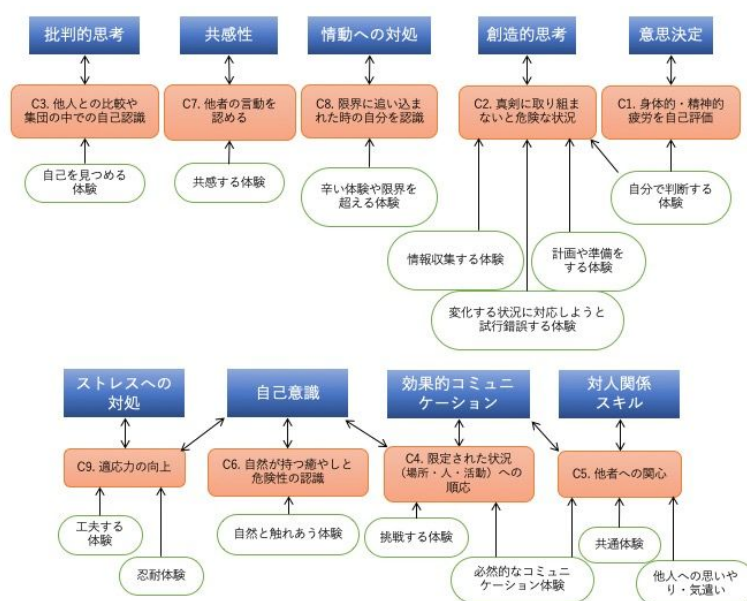


図 生成したカテゴリーとライフスキルの関係性 (研究 2)

< 引用文献 >

- 1) Educational Benefits of Waterside Nature Experiences and Ocean Education, Koichi Chiashi, Hisayo Tomago, Japanese Journal of Maritime Activity, 3(1): 6-16, 2014
- 2) 橋直隆, 平野吉直, 関根章文, 長期キャンプが小中学生の生きる力に及ぼす影響, 野外教育研究, 6 巻 2 号 p. 45-56, 2003
- 3) 川畑徹朗翻訳, WHO 編集, WHO-ライフスキル教育プログラム, 1997

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 0 件)
 投稿中 2 件

[学会発表](計 6 件)

[題目名] 海洋自然体験活動におけるライフスキル研究の必要性, 千足耕一, 蓬郷尚代, 松本秀夫, 2016 International Conference of Sports, Leisure and Hospitality Management, Taipei

[題目名] どのような海洋自然体験がライフスキルの変容を促すのか, 千足耕一, 蓬郷尚代, 松本秀夫, 日本野外教育学会第 19 回大会, 2016 年 10 月 15 日 (静岡県御殿場市)

[題目名] Effect on acquiring Life Skills through ocean nature experiences, Koichi CHIASHI, Hisayo TOMAGO, 2017 International Conference of Sport, Leisure and Hospitality Management, Taipei

[題目名] 海辺の自然体験活動がライフスキル獲得に及ぼす影響, 千足耕一, 蓬郷尚代, 松本秀夫, 日本野外教育学会第 20 回記念大会, 2017 年 6 月 18 日, (国立オリンピック記念青少年総合センター, 東京)

[題目名] 海洋活動におけるライフスキル獲得に関する調査研究, 千足耕一, 蓬郷尚代, 松本秀夫, 日本海洋人間学会第 7 回大会, 2018 年 9 月 22 日 (東京)

[題目名] 海洋自然体験がライフスキル獲得に与える影響 - 集中授業参加者を対象とした質的研究 -, 蓬郷尚代, 千足耕一, 松本秀夫, 日本野外教育学会第22回大会, 2019年6月22日(仙台大学, 宮城県)

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年:
国内外の別:

[その他]

ホームページ等 http://chiashi.jp/?page_id=1221
6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号(8桁):

(2)研究協力者

研究協力者氏名: 蓬郷 尚代, 松本 秀夫

ローマ字氏名:(TOMAGO, hisayo)(MATSUMOTO, hideo)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。